

# 「国際問題」について考えよう！

## 【実践者】

氏名	増田 萌	学校名	栃木県立佐野高等学校
担当教科等	保健体育	対象学年	1 学年(38名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2024年10月～11月(4時間)		

## 【実践概要】

### 1. 実践する教科・領域

総合的な探究の時間

### 2. 単元名と単元目標

- ① 単元名  
「国際問題について」
- ② 単元目標  
現代における課題を自分事として考え、よりよい解決に向け行動できるようにしよう。
- ③ 関連する学習指導要領上の目標  
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(高等学校学習指導要領 総合的な探究の時間)

### 3. 単元の評価基準

- ① 知識及び技能  
・探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- ② 思考力、判断力、表現力等  
・実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③ 学びに向かう力、人間性等  
・探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

### 4. 単元設定の理由・単元の意義

- ① 単元設定の理由  
これからの社会を担う生徒たちに外国の文化に触れてもらうことで、より広い視野をもってもらいたい。多様な価値観を身に付けることで、他者との関わる力を養うことを期待して単元を設定した。

## ② 単元の意義

本校の生徒には、国際人として活躍できる真のリーダーを目指しグローバルな活動に興味を持ち、力を入れていきたいと感じている生徒が多い。実際に国際問題を取り上げ、研究をする生徒もいる。将来グローバル活動に携わる際に、今回の授業が少しでも生徒の役に立つきっかけとなるようにしたい。

## ③ 児童/生徒観

1年生の38名のクラスである。クラスは全体的に明るく賑やかであり、授業では積極的に発言する生徒もいる。総合的な探究の時間では、自分の興味のある課題について研究を進めているが、将来の夢や目標に直結する研究をしている生徒は少ない。

今回の国際問題について、なにかのきっかけとなることを期待したい。

## ④ 指導観

国際問題が騒がれる中、この授業を通してより多くの問題について考えるきっかけとなるようにしたい。解決に向かうための行動を起こせるように生徒に指導していきたい。

## 5. プログラム計画

回	テーマ ねらい	方法・内容	使用教材等
1	ウガンダについて ねらい:ウガンダについての基本的な知識を身につけよう。	・ウガンダってどんな国?写真を用いてウガンダについての基本的な情報を取り入れる。 ・ウガンダと日本について比較をし、共通点や相違点、良いところや課題を見つける。 ・課題が上がったところで、次回の国際問題(難民問題)について触れる。	・ウガンダ研修の写真のスライド 
2 本時	難民問題について考えよう ねらい:ウガンダの難民受け入れについて考えよう。	・前時の振り返りをクイズ形式にして復習をしてから、本題の難民について考える。 ・個人で「難民を受け入れることのメリット・デメリット」を考えたあとに、グループ活動を通して難民受け入れについて自分の意見を共有し、問題解決に繋げる。 ・互いの意見を尊重し傾聴し合うことで、新たな発見、気づきに触れ、視野を広げられるようにする。	
3	ねらい:難民を日本で受け入れることについて考える。	・個人で対比表を用いて、難民を受け入れるにあたりメリットとデメリットをあげる。 ・グループで共有をする。 ・受け入れる側、受け入れられる側、双方にとってより良い対策を考える。	

## 6. 本時の展開

時間	2 時間目		
本時のねらい	難民問題について考えよう		
過程 (時間)	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前回の授業の振り返りを交えながら、クイズ形式で復習をする。</li> <li>●本時のねらいを確認</li> </ul>		クイズ用写真
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個人で考える</li> <li>●グループ活動 ウガンダが難民を受け入れ続けることについての、メリットとデメリットを考える。</li> <li>●全体活動 グループごとに出た意見を発表する。</li> <li>●グループ活動 デメリットをメリットに変える対策を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入する。</li> <li>・対比表を用いてグループ活動を行う。</li> <li>・机間巡視をして助言をしていく。</li> <li>・グループ内の意見、発表者を拍手で称える。</li> <li>・グループごとに意見をまとめる。</li> <li>・グループで上がったデメリットをメリットに変える対策を考える上で、「自分がウガンダの住人だったら」ということで考えさせる。</li> </ul>	難民の子どもたちの写真
まとめ (5分)	●振り返り	・振り返りシートに記入。	

## 7. 評価規準に基づく本時の評価方法

記録による評価は行わず、生徒の活動の状況、振り返り等を確実に見届け評価の代わりとする。

## 8. 学校外との連携

国際理解教育に興味のある身近な先生、地域の方を招待し、プレゼンを用いて意見交換を行った。

**ウガンダは緑でいっぱいだった。**

佐野高校 増田 明

空港からの道 とにかく**緑**が多い



首都カンパラでは意外と都会？  
交通渋滞ひどい



中古の日本車



昔イギリスの植民地だったことから、日本と同じ右ドライバーなため日本車が多く走っていた



日程と訪問場所での活動について、パワーポイントを用いて説明を行った。「今の自分たちの置かれている立場からできることは何か」ということを考えた。

## 9. 生徒の学びの軌跡

生徒の振り返り(抜粋)

- ・「難民」というものに関して考えたことがなかったが、今回で「難民」に対する理解が深まった。
  - ・日本人が日本人のために、納めている税金で難民を助けるには善意だけではどうにもならないことも多く、何か受け入れる国(日本)がメリットを得られるような策があれば良いと思った。
  - ・「難民を受け入れること」は、特に治安がよく礼儀正しいと言われる日本では問題が多すぎると思った。
  - ・日本の難民問題の対応が消極的なことに疑問を持った。
  - ・難民を受け入れることは、最初は悪いことだと思っていたが、良いこともあるのだなと思った。
  - ・まずは自国が豊かでないと受け入れる余裕ができないと考え、受け入れる人数が全てではないと考えさせられた。
  - ・「難民」に関する問題は、世界的にも大きな問題であると改めて感じた。
  - ・実際に、難民問題を解決するために、日本、他国ではどのような取り組みをしているのか気になった。
  - ・難民を多く受け入れているウガンダは、何をメリットとして受け入れているのか、国の負担はどう解決しているのか気になった。
  - ・人とたくさん会話して、感謝の気持ちを持つことが大切だと感じた。
  - ・今まで考えられなかったような、難民のメリット、デメリットに気づくことができた。
- 国際問題はこんなにも身近であると知ることができた。
- ・世界の難民問題についてもっと知りたいと思った。
  - ・グループワークを通して、難民に対する意見は人それぞれであることを再確認することができた。行動しなければなにも変わらないかもしれないが、少しでも難民にとって移動した先の国で、居心地よく生活できる場であるために、受け入れ国は体制を整える必要があると思った。

## 10. 自己評価

### ① 成果が出た点

本校生徒は、「国際人として活躍できる真のリーダーの育成」を目指しグローバルな活動に興味をもち、力を入れていきたいと感じている。生徒が、現代における国際問題を自分事として考え、よりよい解決に向けた考えをもてたと感じた。今回教師自身が発展途上国に行き、見聞きしたことを生徒にダイレクトに伝えることで、より世界やウガンダの国際問題について興味を持ち、国際問題を身近に感じ、考えてもらえたことは授業を通して振り返りシートからも読み取ることができた。また、国際問題を取り上げ、生徒自身の課題研究で国際問題について研究するグループも

見受けられたことから、行動に移す第一歩として、課題研究を通して理解を深めようとしていることがわかった。

## ② 苦勞した点

国際問題として、本授業ではウガンダの難民の受け入れについて考えたが、難民の受け入れ者数が少ない日本にいる私たちにとって、ウガンダ側の気持ちになり難民問題について考えることはとても難しいことであり、今何を、どう考えさせることが一番重要であるのかについて考えることが大変であった。

## ③ 改善点

難民のことについて考える前に、難民について「知る」ことが大切だと強く感じた。授業を通して、基本的な人権意識の希薄さを感じた。難民を受け入れた際の、制度を考えたグループが第一次産業をやらせる。という発言があり、第一次産業で働く人たちがいなくては、私たちは生きていくことができないことなど、理解していない生徒もあり、難民についての知識も、あらゆる知識の乏しさを感じたため、まずは基本的な人権問題について学ぶ必要があると感じた。

## 11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

1学年の全クラスで、ウガンダという国についてパワーポイントを使い写真を用いて紹介をした。

## 12. 自由記述

今回ウガンダでの教師海外研修を通して、改めてウガンダの人、文化、価値観の違いについて知ることができた。現地の人々と関わることで、知見が一気に広がったと感じる。

授業実践では難民問題について取り上げたが、難民の受け入れ者数が少ない日本にとっては聞き馴染みもなく、知識が乏しく考えが深まりにくいと思ったため、難民問題について事前にたくさんの情報を収集した上で話し合いの場を設けられると更によかったと感じた。また、より良い世界をつくるために一人一人が自分ごととして物事を考えられるように、まず周囲に興味・関心を持つことが大切であると感じた。

ウガンダに行ったことで、世界のことがより身近に感じることができ、今まで以上に世界中に関心を持つようになった。引き続き、今回現地で感じたことや学んだこと、人と人との繋がりが大切であることを、学校生活や授業を通して生徒に伝えていきたい。

最後に、この研修をサポートしてくださった JICA の方や現地で働かれている日本人の方の協力をはじめとする、スタッフの方々に厚く御礼を申し上げます。

## 13. 参考資料

資料名	出版元、URL 等
「生きる力」を育む国際理解教育実践資料	JICA 地球ひろば(2019年10月)
よりよい未来のために学び・ともに創る ファシリテーターのための参加型アクティビティ集 コミュニケーション編～他者に関わる力を育もう～	特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター(令和元年3月)
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探求の時間の時間編(平成30年7月)	文部科学省

14. 本時で使用した資料

【資料】

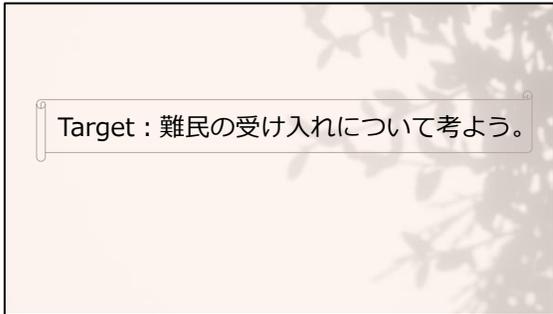
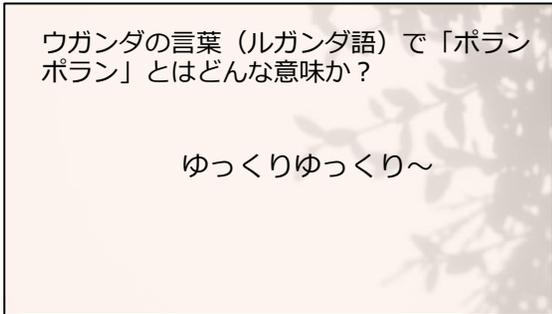
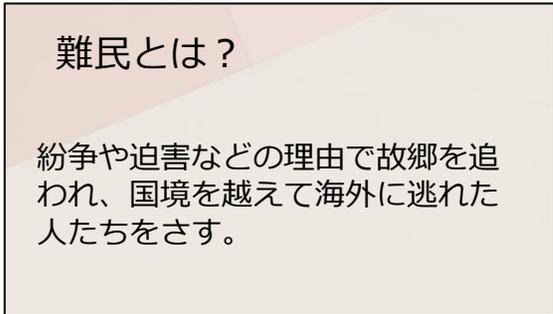
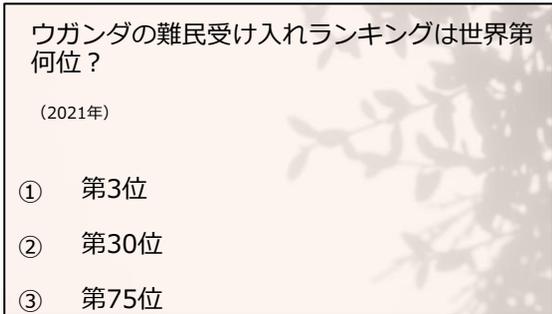


Table with 2 columns: メリット, デメリット

- ① 「難民を受け入れること・受け入れ続けること」のメリットとデメリットをグループで共有する
② グループごとに④ で上がったメリットとデメリットを発表する
③ ① で上がったデメリットをメリットに変える対策を考える
④ グループごとに対策を発表する

今回の授業を振り返り、感じたことを自由に記述してください。